

# 農地・水・環境保全だより第55号

編集・発行 三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

「第4回桑員地域多面的機能活動のつどい」  
を開催しました!!

令和5年10月23日（月）、いなべ市の藤原文化センターにて、「第4回桑員地域多面的機能活動のつどい」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止が続き、今回4年ぶりの開催となりました。桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町の管内4市町の活動組織から69組織149名の参加がありました。

まず、主催者を代表して開催地いなべ市の日沖市長より開会の挨拶があり、その後、長期活動組織の紹介、管合取組事例発表、田んぼダムの普及啓発に関する講演、活動サポートを行いました。

管内の取組事例発表では、東員町産業課松田主事から、町内の活動組織「ECO最頂」の活動について報告をしていただきました。施設の軽微補修の自主施工、景観形成のための植栽活動など、組織で一体となり地域の資源を守る取組を紹介していただきました。

田んぼダムに関する講演では、三重県農林水産部農山漁村づくり課の浦田係長から、田んぼダム実施による流域治水の効果や多面的機能支払交付金の制度を活用した取組方法について紹介していただきました。参加者は熱心に聞き入っており、つどい終了後すぐに試行を希望された組織もあり、非常に有意義な時間でした。

活動サポートとしては、草刈り機の安全使用や地域で行う施設の機能診断についてDVD視聴による研修を実施しました。また、三重県農地・水・環境保全向上対策協議会から事務手続きにおけるポイントの説明を行いました。

最後に、桑名農政事務所の堀江所長の挨拶で閉会しました。

開催後のアンケートでは、「参考になった」「田んぼダムに興味をもった」などの意見が多く、好評をいただきました。今後も活動組織のみなさまにとって有益な場となるようなつどいを開催していきます。



会場の様子



日沖いなべ市長の挨拶

三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

## 活動組織の紹介

### ◆ 小天狗の里やまで（伊賀市）

設立	平成26年度
取組面積	田：4,948a 畑：751a 合計5,699a
主要施設	水路：25.8km 農道：3.3km ため池：26ヶ所
構成員	農業者・非農業者 総勢88名

私たちが活動する地域は、伊賀市南部地域にあり、水稻を中心とした農業を営んでいます。当組織は、平成26年度より活動を開始し、今年で10年目の活動に入ります。

「小天狗清蔵」に副える治水施設の補修や自然環境を守り、農村環境保全の景観形成活動に力を注ぎ、美しい里を目指して活動しています。

これからも、地域資源を地域で支え守る体制づくりを続けるとともに、構成員の方と共有しながら、推進していきたいと思っております。

年間計画に沿って様々な取り組みを行っておりますが、その代表例を紹介させていただきます。

#### 1. 農用地

農用地周辺の畦の草刈り及び獣害柵設置等による維持点検を中心に活動しています。



## 2. 農道・水路

農道は砂利農道の轍を解消するため、碎石の補充を行い、農作業効率の向上を図っております。

農業排水路は水路に土砂がたまり、草が生え排水の流れが滞ります。スコップで泥上げは大変な作業のため、時にはユンボを借り対応したりする場合があります。



## 3. 田植え・稲刈り体験

学校連携事業として、成和東小学校児童（5年生）と田植え体験・稲刈り体験学習を行っています。この取組は猪田地域内の活動組織6組織と合同で実施しています。



## 4. 啓発活動 LED イルミネーション

啓発・普及活動として、LED イルミネーションを毎年11月中旬～1月中旬まで行っております。地区内の児童も参加してもらい、構成員と一緒に制作しています。今年のテーマは「みこし」です。ぜひ観にきてください。

場所：伊賀市山出地内 山出公民館付近



※写真はR4年度の作品で「もちつき」をテーマにしています。

「農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム」  
が開催されました

令和5年12月6日（水）、7日（木）の2日間、東京都千代田区砂防会館別館1階 利根大会議室において「農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム」が開催され、Webでの参加者を含め全国から地域資源の保全活動に携わっている方々等800名余りの参加がありました。



講演の様子

本シンポジウムは、多面的機能支払交付金（以下「多面支払」という。）による活動が持続的に実施されるため外部人材や多様な主体との連携を通じて、地域コミュニティの強化や人材育成を図っている事例等について情報共有を行い、多面支払による活動の促進や活動組織の体制強化に向けた気づきを得る機会となるよう開催されました。

併せて、会場には地域資源の保全・活用に有益な技術を有する企業ブース（14社）が設置され、参加者は興味のあるブースの担当者からいろいろ説明を受けていました。



企業ブースの様子

『全国シンポジウムプログラム』

令和5年12月6日（水）（第1部）

- 講演①「地域に消えない火を灯せ」～住民のやる気を引き出す力～
- 講演②「嫁に来たくなる里づくり」
- 講演③「大崎耕土の巧みな水管理と、持続可能な水田農業」
- 講演④「事務処理の効率化を通じた事業推進について」

令和5年12月7日（木）（第2部）

- 講演⑤「地域の教育機関との連携事例」
- 講演⑥「高校生と連携した農村を守る活動」
- パネルディスカッション

「農業・農村を次世代に引き継いでいくために  
（多面的機能支払の活動組織と教育機関へ期待される役割）」



パネルディスカッションの様子